



う 羽 化 か

2000年10月
第22号

漢字交換会
横 浜 漢 点 字 羽 化 の 会
〒231-0851 横浜市中区山元町2-105 Tel 045-641-1290
発行責任者 代 表 岡 田 健 嗣
編集責任者 宇田川 幸 子



目 次

漢点字変換ソフト「EIBRK」について (6) (木下 和久)	・ ・ ・	i
川上泰一先生に出会って (4) (東野トシエ)	・ ・ ・ ・ ・	1
日本と中国の漢字使用状況の比較研究 (まとめ)		
(村田 忠禧)	・ ・ ・ ・ ・	5
三つの出会い (岡田 健嗣)	・ ・ ・ ・ ・	7
漢点文字符号の一部改定について		
(岡田 健嗣)	・ ・ ・ ・ ・	11
報告と案内	・ ・ ・ ・ ・	13
道の授業 (伊藤 邦博)	・ ・ ・ ・ ・	14
連載「点字から識字までの距離」(19)		
(山内 薫)	・ ・ ・ ・ ・	17
イラスト版「漢点字ってどんな字？」(21)	・ ・ ・ ・ ・	21

川上泰一先生に出会って (第四回)

東大阪市 東野 トシエ

テキストの『欧州紀行』を読み(承前)

最初は遠慮がちに持つて行つて行つていたのですが、だんだん慣れてきて、(今日は特別おいしいなあ)と思ひ食べ終わると、「しかし君たちおいしそうに食べるな・・・しかも給食のパンを、先生少しいかがですかの一言も無しに」と笑ひながらおつしやり、私たちも恥しくて笑うしかありませんでした。

しかし、時間がないからその日はパンを食べずにおくかパンを焼かずに食べるかすればよかつたのに、今思うと私はこのころから、食べることに執着心があつたのだなあ、そして、おいしくして食べたという願望があつたのだなあと思います。

メモをとつてちゃんと聞いていれば、今ここに漢点字のことを詳細に書けるのですが・・・もつたない話です。何とお詫びしてよいか分かりません。

お昼休みに『欧州紀行』を読みに行き、次のテキストを鞆箱の中に入れておいて下さるのですが、「またげた箱にいれとくけんどな、ほんまのラブレターもいれてもらえよ」とこんなこともおつしやり、私たちは苦笑しておりました。

「このお部屋は空気が悪い」と言つてしまったことがあり、「あー！さわやかで気持ちがいい」と言

いましたら、「君たちが来ると思つて今空気を入れ換えたところや」とやさしくおつしやいました。私たちは恐縮して「すみません」。

川上先生の頭の中は漢点字のことばかりだったのですが、生徒の気持ちもほんとうによく分かつて下さり、つまらないことにも耳を傾けて聞いて下さいました。

まだこのころは、私たちが利用できる漢点字が書ける道具はありませんでした。川上先生は従来の6点の印刷機を使用し、苦心なさつて『漢点字解説』などを書いて下さつておられました。私たちは、テキストの書き取りなどの答案は、前置符号方式で書いていました。それは、1マス漢点字には6の点、2マス漢点字には5・6の点、3マス漢点字には4・5・6の点というふうにして漢点字を表しておりました。従来の6点の点字板で書くには書けましたが、読むのに大変困難をきたしました。

川上先生が書いて下さつた『漢点字解説』は違和感なく読めるのに、前置符号方式ではこんなに読み難くなるのですねと、川上先生はじめお友達とよく話しました。最近のように、インターネットなどで入手した電子データは英文や記号類が混在していますので、もうお手あげだと思ひます。

川上先生は括弧は3種類でよいとおつしやつておられました。「:」・「:」・「:」の3種類を指しておられたのだと思ひます。現実問題として3種類ではちよつと足りないような気が致します。

また、記号類も余り多くなると、読み難くなるので省略した方がよいように川上先生はおっしゃり、読点はマス空けでよいようにおっしゃっておられました。読みやすく漢点訳していただけるのなら、それはそれでとても嬉しいです。

このころ、川上先生は漢字から漢点字へ漢点字から漢字へ変換できることは予測なさっておられましたが、これほどパソコンが普及することを予測されておられたでしょうか？時代とともに環境が変わり、それに伴って整備していく必要があるのではないのでしょうか？

とは申しましても漢点字の創案者は川上泰一先生です。これは絶対不変です。

インターネットなどで入手した電子データは記号類がたくさん混在しております。電子データなどのテキストファイルからの漢点訳は、漢字は漢点字で問題ないのですが、記号類はきちんと整理されていませんのでいろいろ問題があります。OPなどのソフトを作成していただくに当り記号類のことで大変苦労しております。記号類の整理をしていただきたいと願っています。

ときには原文のまま読みたいこともありますし、原文ではどのように書かれているかを知っておく必要があることもあります。私は墨字文を読んだことがありませんので、こんなとき普通皆様方はどのように書いておられるのかよく分からなくて困ることがあります。だからなるべく原文のままを読みたい

です。とにかく読んで作者の意図が分かることが大切なのでしようが、読んで覚えて、今度自分が書くときの参考にしたいと思っております。それは晴眼者にテキストデータを送信したり、墨字プリントして渡すことが多くなつたからです。

また、一言に原文のまま漢点訳をと申しましても、レイアウトなどの問題もありますし、普段は余り使用しない文字を作者が使用なさっておられることもあります。例えば理数の記号類や楽譜などが文中にあればなかなか大変です。私も数冊の本を校正させていただいておりますが、思いのほか苦労しています。

どの漢字が常用漢字で、どの漢字が当用漢字かどうかというのは変更されるので余り気にしなくてもよいようにおっしゃり、送り仮名についてもそう気にしなくてもよろしいと川上先生はおっしゃいました。私は音声ソフトを使用しており、そのソフトの読みに惑わされています。

私が「読み方が分からないと手が止まってしまふ」と申しましたら、「熟語の漢字の順番が入れ代つていてもさほど問題じゃありません。それよりも漢字の持つ意味を理解して読書しなさい」とおっしゃり、とにかく漢字の持つ意味を理解することが大切だと川上先生は御指導下さいました。

漢点字を晴眼者と学習できるように『漢点字漢字対照表』を作成して下さいました。これは盲人と晴眼者が向かい合つて座り、真ん中に本を置いてお互

いの方から読めるようになっていきます。字の頭と頭がくっついていたり申しましょうか。字の方向が逆になっていきます。また、川上先生は、点字と墨字とを並記して書くとき同じ向きで書く場合ですが、墨字を上点字を下に書くべきだ、墨字を右に点字を左に書くときとおっしゃっておられました。それは私たちが点字を読むとき手で墨字を被せてしまうからです。

川上先生が私たちのためにして下さることは、私たちにとって便利なようになおかつ一般の人たちに御迷惑にはならないようにと、こういうふうになりつとした御配慮がたくさんあったと思います。現在、バリアフリーとよくいわれていますが、私たちが便利なように要望を出し過ぎて、逆にバリアを作らないように気を付けなければならぬと思います。

『漢点字解説』の誤字に気が付いて笑っても、川上先生も笑いながら「点字は盲人が指で読んで校正せなあかん、理療科のM先生にしてみたら読んでるんやけんどな・・・ほんまようやって下さった。疲れておられ急がなくてもいいといつても、熱があつてもちゃんと校正して下さった。M先生も先生も職員会議のことで気になることがあつたりするとな・・・」とおっしゃり、誤字は認めて即刻訂正しておられました。校正していただかれたM先生には感謝しておられました。

「先生(三三の)と(三三よ)とをよく間違えられま

すね。他の先生は(三三の)と(三三き)なのに・・・」と言ったことがあります。子供ですから正直です。遠慮はありません。大変生意気な失礼なことをいったものだと思います。今私自身がアポロ式とパーキンス式とを使つていてその間違いをときどきしています。「先生ごめんさい。今ごろお詫びしても遅過ぎますね」。

最近パソコン点訳になり、半マスずれているのを見掛けたことがあります。例えば(および)が(がいび)になっていたりするのです。これは晴眼者が画面に表示している点字のパターンを見ておられるからではないでしょうか?そんなとき川上先生はこのことをおっしゃっていたんだなあと思わされています。

ちなみに、点字を大切に扱っているのは、盲人でもなく盲学校の先生でもなく点訳者ではないでしょうか?私たちは点字を書くのになんとなく面倒と書くところがありますが、点訳者は手軽に鉛筆で文字を書かれるように、私たちには点字で書いて下さるのだと思います。また、正しい点字を書かれるのも点訳者だと思います。ほんとうに点訳者は私たちが読んで分かるようにいろいろ工夫して下さっておられます。また、絵などいろいろ苦心して書いて下さっておられます。ところが、複雑だと私たちが分かり難いこともあります。日常実際に触ったものがあるものはいいのです。それにまだ平面的なものばかりと分かります。しかし、立体的なものはずか

しいです。陰を浮かべるといいと教えていただき最近では少し分かるようになりました。

私は、小学2年生のとき学生時代点訳をして下さっていた新任の先生が受け持って下さり、このとき点字の書き方を習いました。そうして、中学生になり文法を習い、仮名点字のマス空けが少し理解できたような気がしていました。点字競技会にも学校代表で数回出場させていただきました。

川上先生は、「点字のマス空けは文をぶつ切りにしている。日本文にはリズムがある、俳句のマス空けは5・7・5のリズムを無くしてしまっています」とおっしゃり、「点字競技会もナンセンスです。速く書けるようになって意味はありません。文章を理解しなければなりません」とおっしゃいました。

点字板で速書きの練習をしたり、カニタイプライターでガチャガチャただ速く書くことに無中になっていた私は、後頭部をガンとぶたれた感じがしました。

「はい、これ読んで。次はこれ」と渡され、仮名点字から漢点字などいろいろなものを読んだり書いたりしました。「速度は変わらないな。ちよつと読み難いか？」などと確認のために生徒の私たちに尋ねて下さいました。今思い返すとあれは実験しているいろいろな研究して下さいのだなあと思います。

また、漢文を原文のまま読めるように、返り点を2種類ほど作成されいろいろ工夫して下さいました。

れました。

「盲人は漢点字の読み書きが十分できます。漢点字は盲人の文字、盲人が指で読み手で書けないと文字とはいえない」とおっしゃっておられました。

「言葉は大切やけん」とそれ以上に文字は大切やぜ。数列に並んで短文を隣の人に伝えていくゲームあるけんどの、正しく伝わったことないやろ。あれでちゃんと証明しています」と例を出して笑いながらおっしゃっておられました。



つづく

次は、前号(二号)に引き続き、横浜国立大学教授、村田忠禧先生の論文の「まどめ」を転載するものです。先生は九月末まで中国にご滞在とうかがっております。この論文の閲読をご希望の方は、活字版と電子版がございます。詳細は左記のアドレスにお尋ね下さい。

murata@edhs.ynu.ac.jp

日本と中国の漢字使用状況の比較研究

村田 忠禧 (横浜国立大学)

これは平成九年度～十一年度科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))研究成果報告書『国際的情報交換の視点にたった東アジアの漢字文化の個性性と共通性についての研究』(研究代表者 村田 忠禧二〇〇〇年三月三十一日発行)に発表した報告論文です。

九 まとめ

これまでの分析から日本語と中国語では漢字の使用状況に共通性と個性が存在する。両者に共通する点は以下のようなことである。

1) 日本語でも中国語でも実際に使用されている漢字の異なり字の総数は数千の単位であって、数万ではない。字種の数は調査する対象が多方面になり、また数量も多くなれば、当然のことながら増大するが、中国語の場合にはおよそ七千程度、日本語の場合には五千程度であって、それ以上急激に増大することはありえない。

2) 中国語でも日本語でも活発に常用される漢字とそうでない漢字の集団があり、それぞれの活動量はかなり異なる。中国語の場合には使用頻度の上位か三千八百から四千三百位程度の漢字で九九・九%以上

の覆蓋率を達成することができる。日本語の場合には使用頻度の二千八百から三千位程度で九九・九%以上の覆蓋率を達成できる。これら常用的な漢字の集団を把握することが漢字をめぐるさまざまな問題を解決するうえで鍵となる。

3) 漢字の問題を考えるうえで、中国語や日本語というそれぞれの言語の中で漢字の問題を考えてはならない。とりわけ人名や地名など固有名詞は翻訳不能のものであり、たとえその言語独自では使用されることがない漢字であっても、漢字文化圏全体での情報交換という視点から、共通して利用できる環境を確保しておく必要がある。

4) 日本でも中国でもそれぞれ独自に情報交換用漢字符号集を制定し、コンピュータ時代に漢字を対応させるうえで大きな役割を果たしたが、いずれの漢字符号集も不十分な点が存在しており、いずれ全面的な見直しをする必要があると思われる。

同時に、日本語と中国語の間では言語の違いなどの原因から、漢字にたいする対応に異なった側面が存在する。

1) 漢字のみを基本的文字とする中国語の場合には、漢字の改革を異体字の排除と漢字の簡略化、印刷用字形の確定という点に重点をおき、漢字の使用を抑制するという発想にもとづく漢字政策は見られなかった。日本語の場合には漢字のほかに仮名文字という基本文字が存在するため、漢字の使用を制限させる改革が行なわれてきた。同時に、異体字を排

除して規範的な漢字表記を確立することについては明確な指針を出していないため、常用漢字に含まれる漢字のみ字形を簡略化し、それ以外の漢字は旧来の字形を用いるという、新旧二つの字形が複雑に混在する状況が続いている。

2) 日本における漢字の使用を抑制する政策は、教育用漢字、常用漢字という基本的な漢字を定着させるうえで積極的な役割を担ってきた。しかし常用漢字の中には今日の日本語における漢字の使用状況に合致していないものも存在しており、再検討が必要である。中国におけるGB漢字符号集の制定にあたって、使用頻度の統計にもとづいて第一級、第二級という区分をしたことはかなり効果を挙げているが、それとの比較でいえば、日本のJIS漢字符号集の第一水準、第二水準の区分、あるいは漢字符号集への漢字の選定にかなり重大な問題が存在しており、それが漢字問題としてさまざまな議論を呼び起こしている。

日本でも中国でもこれまで漢字の問題はそれぞれの言語固有の問題であり、他の言語の干渉を受けないようにすることに力点が置かれてきた。もとよりそれぞれの言語文化の独自性を保つことは重要なことではあるが、文字としての漢字は言語の枠を越えて存在する。それはアルファベットが英語にのみ限定された文字ではなく、世界のさまざまな言語で使用されているのと同様なことである。このような観点から、漢字を文字として使用している東アジアの

各種言語は漢字の問題を共同して調査、研究し、漢字文化の現代社会での役割、とりわけ高度情報化社会におけるその積極的活用について解明してゆく必要があると思われる。そのためには何よりも正確に現実を把握するより大規模で広範な分野に及んだ実態調査が必要である。本研究はまだその初歩的な段階にすぎないが、新しい次元での東アジアの漢字文化を再建するために一石を投ずることができれば幸いである。また漢字の問題だけでなく、今後は漢字を手がかりにして語彙の調査、分析が必要であることを申し添えておく。

最後に、本研究を行なううえで協力してくださった以下の方々に感謝の意を表わします。

漢字の使用頻度を計算するためのソフトウエア、Character Counterの初期の形を作ってくれた横浜国立大学工学部研究生(当時)の劉トン君、およびそれを完成させてくれた横浜国立大学工学研究科大学院生(当時)の寺田光太郎君。

日本語漢字と中国語漢字のコンバートソフトである ktrans というフリーソフトウエアを公開して下さっている北原基彦さん。

この他に作業をするうえで大変役立つシエアウエアとして COM の「卓駆」、エディタでは Wz Editor がとても役立った。Microsoft 社の Access および Excel なしには今回の分析はありえなかった。

各種のデータについては、本文中に紹介したもの

以外にもたくさんホームページから貴重な情報を入力することができた。そのような既存の電子データの利用させていただいた他に、分析のためのデータの整理、あるいはOCRを使つての電子化作業で、横浜国立大学大学院教育学研究科の大学院生の伍亦静さん、李吉男君、崔継紅さんの協力をいただいた。また横浜国立大学客員研究員として一緒に公開講座「漢字文化の過去・現在・未来」の報告を行なった中国・山西大学中文系の馮良珍教授にもいろいろとご協力、ご教示をいただいた。

東アジアの漢字文化の問題について考えをまとめ、報告をする機会を与えてくださったのは台湾大学日本綜合研究中心・台湾大学法学院長の許介鱗教授である。また香港城市大学語言科學資訊科學研究中心の鄒嘉彦教授、中共中央党史研究室の石仲泉主任にはそれぞれ報告と論文発表の機会を与えていただいた。横浜市立大学の矢吹晋教授には、今回の研究に先立つ研究として、横浜市からの研究費補助にもとづく『毛沢東選集』を素材とした日本と中国との情報交換用漢字コード体系の比較の研究を行なううえでお世話になつた。

最後に、本研究のために三年間の科学研究補助費を提供してくださつた文部省に心から感謝の意を表明する。



本号では、「点字の読みづらさと漢点字の触読について」を休載し、漢点字公認を求めて文部省等に陳情する際に製作された『漢字をこの手に』に収録された拙文を、左に補筆して再録します。(岡田)

★ 三つの出会い ★ 岡田健嗣

これから記しますのは、私がこれまでの人生の中で、最も大きく動かされた出会いについてです。

私は、1970(昭和45)年に盲学校を卒業して社会に出ました。盲学校では、普通科の晴眼の先生と理療科(按摩、はり、灸科)の極軽い弱視の先生は普通の文字(墨字)を使って教えて、また軽い弱視の生徒は同様に普通の文字を使って勉強していました。私のような強度の弱視あるいは全盲の生徒は、点字を使って勉強していたのでした。この点字というのが、明治の初期に作られた仮名表記のもので、漢字に対応したものは全くありませんし、ひらがな、カタカナの区別もないものでした。

私たちはこの日本で使われている文字が、これ

ら三つの体系からできていて、よく知られていない。普通は、学校の先生や周囲の大人は、晴眼者で、普通の文字を使っていたから、弱視者は、それらを習得する機会を与えられませんでした。全盲者と強度の弱視者は、仮名体系の点字で書かれた教科書だけを頼りに勉強していました。国語も社会科も、また英語も数学も、そのようにして勉強していませんでした。同様に職業教育の理科も、仮名の点字だけを頼りに勉強したのです。しかも、仮名点字でも、購入できる参考書はほとんどありませんでした。直ぐに手に入るものではありませんでした。このように、強度の弱視者と全盲者に漢字の教育は、何一つ考慮されることなく過ぎたのでした。

そのような盲学校での生活を終えて、社会に踏み出した時、私を待ちかまえていたのが、学力の不足ばかりでなく、常識の不足、人との関係の持ち方の訓練の不足でした。その中でもとりわけ私を苦しめたのは、自身の語彙の貧しさによると思われ、職場など周囲の人との間の言葉の壁でした。

一〇〇日の生命

えるか分らないと思ひ、取る物も取り敢えず漢点字の考案者で、通信教育の主催者でもある故川上泰一先生にお手紙を書いたのと同じで、当時先生は、大阪府立盲学校で教鞭をとつておられ、校内に「日本漢点字研究会」という名称で、校内に事務局を置いておられたように覚えていました。

学習は、「漢点字入門」という極めて初級のテキストと4行書きの簡易点字器が送られて来て始まりました。最も初級といひましてもそこには200字を超える漢点字が紹介されておりました。その漢点字を一つ一つ簡易点字器で打つてノートを作つたのが、漢字の世界への初めての一步でした。

それが終わると「漢点字解説」という大きな山が待つて進めました。一合目から一歩一歩踏み出すようにしながらも、一氣に登り詰めることを祈念しながら学習を進めました。そうしながら周囲の晴眼者にその時取り組んでおられる字について疑問をぶついたりもしました。そのようにして、疑念を晴れて、心の奥で言葉にかかっていた雲が徐々に晴れて、モノクロームの写真がカラーになつたような、あるいはかかっていたモザイクが少しずつ融けて、その奥の輪郭がくつきりして来るようになった。大変具体的な感触を味わえるようになってきました。それまでにはなかった、物事に直接触れる感覚に浸ることができたのでした。それに従つて、何か力のような、自信のような、時分の力で物事を追究し、解釈し、理解できるという手応えが掴めたという実感が湧いて来たのでした。

しかし悲しいかな、漢点字の当用漢字（当時は

まだこのように呼ばれていました(を習得したものの、それをいこなす機会がありませんでした)。周辺の点字図書館や点訳のボランティアの方々は、視覚障害者の漢字の使用を考えようとする動きはほとんどありません。川上先生は組織も極小なもので、全国の二、三の先生にだけばきなかつたからです。何事も実践から得なければならぬまま過ぎなればなり。その間は先生は、小国語辞典を漢字訳して下さいましたので、細々ではあります。漢字とのお付き合いを続けることができたのでした。しかし残念ながら読んだ書きたりすることは、極めて少なかつたので

二つ目の出会い

そのようにしているころ、パソコンの開発が進んで、漢点字のキー入力で普通の文字を書くことができる装置が発表されました。早速購入しました。この装置は、長野県立高等専門学校の知野照信先生が、ポランティアでお作りになりましたもので、初期の8ビットのパソコンで作動するものでした。名称を「チノワード」と言います。現在私がパソコンで文を書いたりするのにも、このチノワードに触れることができたからに他なりません。それは大きな感動と喜びでした。それまで文字を書かなければならない時は、晴眼者の方に代筆

をお願ひしなければなりません。しかし、チノワードを前にして、プリンタに紙をセットして、時分の名前を入力して印字の操作を行った途端、大きな音がしてセツトされた紙に私の名前が墨字で印字されたのでした。機械が動作してできたこととは言え、他の人を介さず、独力で文字を書いたのは、それが初めてだったのです。それまで手を触れることも叶わなかつたことが、何の苦もなく実現したので、そのころは、連日パソコンのキーを叩いてはプリンタで印字して望んでいました。その内、何か実用に使いたいや封筒への宛名書きです。それまで点字の手紙を書く時にも、他の人に住所を書いてもらうか、紙カナタイプライターを使っていました。それとは違い、誰の手も借りずに宛名が書けるのです。さらには有頂天と言ってよいほどでした。それと、思うように深まって、何かものを書いてやろうと知人への手紙です。まず手がけたのが晴眼

三つ目の出会い

三つ目の出会いとは、人との出会いです。「ものを書く」ということは、それまで思っていたことと大きく違っていました。当然として知ったことは大きく違いますが、確かにそれまでの読書の質量を試されることを、肌で知ることになりました。漢点字を習得しコンピュータに触れることで、私は墨字を書くことを覚えたのですが、間もなく

それが非常に困難な作業であることを知ることになり、多くの文章に接して身体に取り込むことが求められることに、遅延しながら気付いたのです。しかし、私にとつて大変幸運だったのは、私の犯した間違い、それも文章指摘のトレーニングの不足による間違いを、率直に指摘して下さった方がおられたことでした。視覚障害者である私に、一般に通じたことでは、文章の姿を教えて下さったのです。このことも私には初めての経験でした。

このことから私は、読書の質と量が、表現される文章の質を決める、という一般の原理を、視覚障害者にとつても当然の常識になるよう、よりよい読書を勧めて行く必要があると考えたのです。残念ながら現状は、私が漢点字を学ぼうとしているところとほとんど変わっておりません。大学進学者は大幅に増えています。特殊な扱いに甘んじているのが現状です。むしろパソコンの普及が、視覚障害者の中に、点字の漢字の必要性に目をつむり、コンピュタで文字が書けるようになったのだから、それで満足、という主張が支配しつつあります。一般の常識である「読む」ことは、「文字」を持たなければ言葉えないというものが、視覚障害者の中には、未だに浸透していません。

現在私は、漢点字訳のボランティア・グループに加えておいて、漢点字の資料を製作する活動を行っております。本会は、視覚障害者の文字の現状を理解して、日本語の表記法である漢字仮名交じりを点字の世界にも実現したい、という呼びかけに、応え下さったボランティアの皆さまにご参集いただき

いたものです。現在は、本会独自に開発した漢点字変換ソフトを使って、コンピュータ点訳するがメインの活動となっており、私が国は、識字率100パーセントを誇る文化国家です。しかし現状では、視覚障害者はその中に含まれておりません。識字を文字どおり日本語の読み書きと考えるのでしたら、一般と同様に、学校教育で、触読に堪えうる漢字の点字の教育が考慮されてよいように思われたいと思います。

私は、現在行っており、多くの晴眼者さまに、視覚障害者と一国民として受け入れて下さるべき責任を求めたい。国が引き受けるべき責任を求めたい。また、視覚障害者の皆さまには、一人の人間として生きる自信を持つために、社会的な責任を果たして行く、それにはコミュニケーションの方法としての文字の習得が必須であるということ。訴えて参りました。視覚を失った私たちが使用する文字は、触覚に訴える触読文字すなわち点字です。漢点字は、大変優れた構造を持つ点字の漢字です。この文字を習得してよい読書をするのが、自身の言葉の開発に結び付くことを、多くの皆さまにご理解いただいて、その普及の進むことを望んで止みません。

本会の活動にご参加下さっている皆さまと、ご支援下さっている皆さまに、心より御礼申し上げます。また、より若い世代の視覚障害者の皆さまの奮起を期待したいと思います。

漢点字符号の一部改定について

岡田 健嗣

この春、日本漢点字協会（大阪府吹田市）から、『川上漢点字』として、JISコード第一水準、第二水準に則った漢点字の符号が発表されました。故川上先生の遺業を分析・整理されたもので、先生が果たされなかつたお仕事を次がれたものです。

本会では、このように統一された漢点字の符号が提示されたことを受け手、今後の活動の基本に置きたいと考えます。

これまで本会で使用して参りました漢点字符号は、左のようにして確認したものです。①漢点字学習テキスト「漢点字入門」および「漢点字解説」（川上泰一著）に収められた漢点字符号。

②「漢点字ミニ辞典」（野島静監修）を第一資料として、多くをそれに依拠。

③各地で発行されている漢点字の資料を収集、比較検討。

以上、川上先生から直接ご提供いただき得なかつた漢点字の符号については、「漢点字ミニ辞典」をはじめ、収集し得る多くの資料を検討したのでした。したがって、JISコード

第一水準、第二水準全ての漢点字符号を、川上先生の提供されたものとして間違なく収録することは、その時点では困難だつたことを銘記したいと思います。

川上先生のご存命中にこのような資料の完成が見られなかつたのは大変残念なことであります。しかし、このように漢点字の符号が現在に至るまで統一されなかつたのは、川上先生ご自身に、その因を求めたことができません。先生は、漢点字の符号の創造に多くの試行錯誤と変更を繰り返しておられました。時期を異にする資料を開きますと、たとえば「黻」は古くは「晒」であり、現在では「黻」は古くは「晒」とあり、現在では「晒」は古くは「晒」と変化しています。このような変化は、新たな漢点字符号を創造する度に、創造の原則と既存の符号の間で、点の組み合わせと回数少ない可能性を探って来られたからに他なりません。

本会の漢点字符号は、私が一九九三年に、私が収集したものを電子符号化して発表したものを使用しています。その折りに、鳥取県の野島静先生に多大なご尽力を賜りましたことを付記し感謝をささげます。

この符号は、川上先生のお手を煩わすこ



となく入力したもので、先生の創案に
なるものと言いつることはできません。そこ
でこの度の「川上漢点字」の符号と比較し、
相異なるものには、「川上漢点字」の符号に
変えることにしました。今後本会で製作する
漢点字の資料は、これに基づいた漢点字符号
であることを明言します。

川上先生は、逝去されるまで漢点字の符
号の検討をなさっておられました。今後その
お仕事をいかにして引き継いで行かれるの
か、強く関心を寄せるところです。

なお、今回の「川上漢点字」は、新JIS
コードに添った構成です。これまで発表され
ておりました漢点字符号は、概ね旧JISコ
ードに添ったものでした。新旧の間には、文
字の付加や移動がありましたので、漢点字符
号にもその影響が出て、いるものと思われま
す。ご不明な点は、日本漢点字協会へご照会
下さい。



改定漢点字符号表 (24字)

漢字 (JISコード) 旧符号 → 新符号 漢字 (JISコード) 旧符号 → 新符号

鯨 (3033) ☰☷☷☷ → ☰☷☷☷ 堯 (3646) ☷☷☷☷ → ☷☷☷☷ 頸 (375B) ☷☷☷☷ → ☷☷☷☷ 蕊 (3C49) ☷☷☷☷ → ☷☷☷☷ 賤 (4128) ☷☷☷☷ → ☷☷☷☷ 梲 (456E) ☷☷☷☷ → ☷☷☷☷ 埜 (4738) ☷☷☷☷ → ☷☷☷☷ 慎 (4B6A) ☷☷☷☷ → ☷☷☷☷ 凜 (515B) ☷☷☷☷ → ☷☷☷☷ 慚 (5850) ☷☷☷☷ → ☷☷☷☷ 梲 (5B6D) ☷☷☷☷ → ☷☷☷☷ 欵 (5D37) ☷☷☷☷ → ☷☷☷☷	穢 (5D53) ☷☷☷☷ → ☷☷☷☷ 穢 (5D54) ☷☷☷☷ → ☷☷☷☷ 瑤 (6076) ☷☷☷☷ → ☷☷☷☷ 藥 (6922) ☷☷☷☷ → ☷☷☷☷ 賤 (6C4D) ☷☷☷☷ → ☷☷☷☷ 頸 (7074) ☷☷☷☷ → ☷☷☷☷ 鯨 (724D) ☷☷☷☷ → ☷☷☷☷ 堯 (7424) ☷☷☷☷ → ☷☷☷☷ 慎 (7422) ☷☷☷☷ → ☷☷☷☷ 遙 (7423) ☷☷☷☷ → ☷☷☷☷ 凜 (7425) ☷☷☷☷ → ☷☷☷☷ 熙 (7426) ☷☷☷☷ → ☷☷☷☷
--	--

報告と案内

1. 以下の2冊の漢点字版が完成間近です。
 - ① 江國滋著『微苦笑俳句』（実業之日本社）『週刊小説』に連載された『微苦笑俳句コレクション』全三百十句から二百三十六句を選び、四季（プラス「新年」）に再構成されたものです。
 - ② 志村ふくみ著『母なる色』（求龍堂）。（著者紹介から）1924年滋賀県生まれ。1955年滋賀県近江八幡に住み、染織の研究をはじめ。1964年京都嵯峨に移り住む。1990年重要無形文化財保持者に認定。1993年文化功労者に選ばれる。
- (以上二書、詳細は、本誌次号で紹介します。)
2. 漢点字訳の月刊で発行しております健康記事に盛られなかったもの内、以下の記事の漢点字訳が完成しています。ご入用の方はお申し出下さい。価格は実費（点字用紙1毎100円）です。

(全て昨年来の、読売新聞掲載『医療ルネサンス』より、1部15枚前後)

「ぶり返す結核」 「糖尿 怖い合併症」 「医事紛争 真実を知りたい」 「角膜炎を考へる」 「変わる診療所」 「てんかんを考へる」 「膀胱がんと言われたら」 「不況で死なないで」 「パーキンソン病と闘う」 「がんと心 患者・家族を考へる」

3. EIBRIDIC (漢字熟語読み方電子辞典) の現在188,000語収録。漢文訓読体の読みにも対応しています。MS-DOS版のみ。コンピュータを使って、漢点字入力のあるいはかな漢字変換で、漢字の熟語の読みを検索するプログラムです。ピンデイスのプレイにも対応しています。
- 漢点字訳書のご購読者は、4,000円、本会の新規ご購入の方は、6,000円、ご希望は、お願います。
- 来年にはウィンドウズ版の完成を予定しています。
4. 月刊の発行物

朝日歌壇、6カ月3,000円、テープ版、
朝日俳壇、6カ月2,400円、テープ版、
同600円。
新聞の健康記事、6カ月1,500円。
5. 「横浜通信 羽化」漢点字版のみ。購読料は無料。
- 漢点字の読みの熟達をサポートする目的で、漢字のご執筆など言葉に関する記事、お医者様のご執筆になります。『いのち』からの健康情報などで編集しています。ご一読下さい。

「道」の授業

小学校教師 伊藤 邦博

道は異民族の首をぶら下げて歩く

この夏休みに、白川静さんの「回思九十年」を読みました。著書のほとんどが専門書の白川さんには珍しく一般書です。この本は漢字研究に生涯の全てを費やしてきた白川さんの歩みを綴った「私の履歴書」と宮城谷昌晃、江藤淳、石牟礼道子さんなど十三人の人々との漢字や文化にかかわる対談が載せられています。一般書とは読み難い本ですが、内容は多岐にわたります。是非一読をお勧めします。

白川さんはこの本の中で、宮城谷昌晃さん、谷川健一さん、江藤淳さんとの対談の3箇所、道という字を話題にしています。

たとえば道というの、異民族の首をぶら下げて歩くという意味の字です。見知らぬ地域に入るためには首をぶら下げて歩くんですね。お清めのため。その道が、後になると「道術」になり、「道徳」になり、普通の真理になり、内容が非常に深められてゆく。漢字一字の中に、人間の意識の発達的全过程が含まれるわけですから、文字の成立から、その後の意味の展開を辿ってゆくと、人間の精神史を築くことができる。

道は異族の首をぶら下げて歩くという字で

す。道といつても外に通じる道で、自分達の居住範囲ではこうした方へ入りません。未知の世界であるとか、敵方へ入りますから、道は清めなければなりません。道に関する漢字はすべて呪的な意味を持っています。

自分達の氏族神が守ってくれる領域は安心ですが、そこを出るときには、悪霊を祓うのです。

安全地帯を出るときには遺族の首を持っていくと、遺族の首が守ってくれるんですね。

清めた道ですと、安全にして寄るべきところということになる。そういう意味も含んで、道は行為の規範ということになる。

私は、「道」の字源は首をぶら下げて歩くということを知っていましたが、ここまで深く関係づけて「道」をとらえてはいませんでした。

しんにゆうは会意文字 読みもあつた

『字統』を開き「道」について読み直しました。「道」についての白川さんの説明を読みました。そして驚きました。道は会意文字であるとなります。首は象形文字である、では首とは四つ角に人の足形でできているのだが、これは象形文字かな、会意文字かなと疑問が湧いてきました。ここまで調べたことは今まで調べてませんでした。『字統』の部首索引から調べて

みるとそこには驚くべきことが書かれていました。授業のところでは詳しく述べませんが、これは会意文字であり、昔は読みとして「チャク、はしるこえる」が与えられていたのです。文字はただ複雑な記号ではなく字形学的に体系があつて説明できるものであることを実感しました。

二学期を迎え、漢字のもつ奥深さとおもしろさを子どもたちにも伝えたいと考え、「道」一文字を使って一時間の授業を組み立てて見ました。

「道」の授業

「今日は漢字の勉強します。」という子ども達からは歓声が上がりました。私のクラスの子ども達は漢字の学習が好きです。はじめに八つ切りの画用紙大の板目紙に、墨で書いておいた道の古代文字を一枚ずつ順に黒板に掲示しました。

① 狽

② 𡗗

③ 𡗗

④ 𡗗

子ども達にはノートに写させました。その後子どもたちは大昔の中国の漢字です。今の漢字では何でしょう。子ども達は古代文字をながめながら次々に予想を立てていきました。子ども達が予想した文字は、歩、遠、走、道、遠、足、進の七つでした。見事に古代文字から現在の文字をとらえてい

ます。あたり、はずれは答えないで次の質問をしました。あたりにしてその文字を予想したのかを「どのようにしてその文字を予想したのかを發表してください。」

子供たちは形が似ているとからと口々に答えました。3枚目の古代文字のりから足と答え、足に関係のある文字だと具体的に根拠を挙げて答える子も出てきました。討論が進む中で足や走は一年生の時に絵文字から漢字が生まれたことを思い出した子どもから、足はひざから下の絵、走は人が走る姿の絵から生まれた漢字であると否定されていきました。

子供たちは正解を知りましたが、知らせません。もう一度昔の漢字をよくみて考えよう」と指示しました。しばらくしてA君が2枚目の古代文字のりからこれは四つ角ではないかと目をつけました。これを聞いたBさんがすかさず四つ角からできた漢字は「行」だといいました。

子ども達の推理は続きました。古代文字④の左半分のりは、どうやら行の左半分のりと同じ合符してできた文字のようだとまでは推理するのですが、それが今のどんな漢字なのかはわかりません。現在では文字の構成要素としての「しんにゆう」はありますが、一つの漢字として読みや意味をもつものとして使用されることはないわけですから子ども達の推理は及ばせん。しんにゆうは四つ角に足形（絵は𡗗）か

らできたものであると軽く指導しただけで、古代文字のまには全く触れていませんでしたから当然です。

黒板に行十止IIのカードを張り出しました。

イの三面目が斜め線に変化しシとなり、止と合体してまとなつたことを説明しました。そして絵を思い出して考えてみようとする指示をしました。子ども達は行を表す絵の四つ角と足を表すものを思い浮かべ始めました。そのうちK君が「ううん、ううん。」とうなりはじめました。記憶の中にあるどこかで見たことがある文字を浮かべているようでしたが、なかなか思いだせません。他の子ども達もK君の様子に影響されて真剣に考えはじめました。K君は「四つ角に足、四つ角に足。」とつぶやきつづけます。それを耳にしたK君の後の席のSさんが「しんにゆうだ。」K君も「それぞれ、それだよ。しんにゆうだよ。」

ここで私は昔の絵を黒板に書いてこの説明をしました。これは行と止が合体してできた合わせ漢字であり、イは小道を、止は歩を意味し、道を進む意味を持ってのことと昔は音読みとして「チヤク」、訓読みとして「はしる・こえる」という読みが与えられていたことを伝えました。子どもたちはどうしてその読みが今はなくなつたのと質問しました。その答えは後で話します。最初の古代文字が今の漢字の何かはまだわかりま

せん、それを考えましよう。」と促しました。子ども達はもう一度古代文字を見つめました。教室中に真剣な雰囲気のみなりました。C君が「つぶやきました。」

「①の絵の真中の字は人間の顔に似ている。」

隣の席のT君が

「そうそう、その上の部分は髪の毛みたい。」

それを聞いたDさんが

「②の真中の部分の下には人がついている。人

の上ののつかつているよ。」

何人かの子が同時に

「顔じゃない」

「でも顔にしんにゆうはつかないよ。」

教室中が熱を帯びてきました。Sさんは

「顔という字の右半分に似ているよ。そういえば頭という字の右側にもついている」

この子たちはすごいと思いつつながら子ども達の発表を聞ききました。頁はまさに顔をあらわしている文字なのです。そして、ついに

「先生、首じゃない。そうでしょ、先生、首で

しょ。」

私は子ども達の推理に驚嘆しました。頷く私を見てたくさんの子どもたちが答えました。

首の絵と首の古代文字を板書するともう大喜びしました。

「首とまが合体してできた漢字だから道

だ。」

子ども達の表情ははやつと解説できたという満足感にあふれていました。

子ども達は古代文字から今までに習った漢字

だ。」

子ども達の表情ははやつと解説できたという満足感にあふれていました。

子ども達は古代文字から今までに習った漢字

だ。」

を手がかりにして、道という漢字を見事に読み解きました。漢字の構造と子ども直観力と推理力の素晴らしさにびっくりました。

今日の授業の最後の発問です。

「なぜ道は首とでできていますのでしょいか。」

I君は明快に答えました。

「道を歩いてきたら四つ角に来て、どちらに行こうかキョロキョロ首を動かしている様子をあらわしているからです。」と

私はI君の発言にうなりました。I君の説明に子どもたちも納得です。

「凄いやね、それでいいよね。ところで昔の中国の人々は次のように考えて道という文字を作ったんだよ。」と喋って冒頭の話をしました。

全員が怪談のトイレの花子さんを知っている子ども達は霊、呪い、お清め、生首、髑髏の話をするなり納得しました。

最後に、戦時中に軍部が文化の統制をしたこと、敗戦後日本がGHQに占領されたときに、GHQの要請に基づいて日本が自ら漢字の使い方を中心してきた歴史をちよつと話して授業を終えました。

何人もの子どもたちが言いました。

「これで道っていう字一生忘れない。」
この学習の振り返りの感想に子どもたちは次のように綴りました。指導者として嬉しい限りです。

漢字ってただ普通に考えていたのに深い意味があるなんてぜんぜん知らなかった。意味ってそんなに難しくできているとは知らなかった。やっぱり漢字は意味があつてこそ漢字ということだ。(Sさん)
漢字ってすごいな。だつて漢字を調べれば昔のことがわかるんだもん。漢字を調べればいろいろなことがわかるかもしれない。昔の人はすごい。だつてこんなに漢字をつくれるから。昔の人は頭がいいな。(O君)

道という字がこんなふうにできているなんて知らなかったけど、後からわかつてきた。道っていう字にこんないろいろな絵が入つていて、楽しいって知らなかった。私は漢字がたのしいなつて思った。(Yさん)

それにしても、と、いい、頁と、いい、現在の規定の仕方はあきれるばかりです。

頁は、今では部首としてのおおが、漢字として読みとしてはページしか与えず、意味は英語のpageです。これでは顔や頭に共通している部分として説明がつかえません。昔は文字として使用され、字訓として「かお」が与えられていたのです。「かお」という訓読みが残つていればこれらの漢字の理解をすることは簡単です。

戦時中だけでなく、戦後も私たちの国の国語政策は(国語審議会が漢字の使用を制限した)り、日本語の変化のよし悪しを決めたりするシテム(漢字の豊かさばかりか、私たちが祖先が気づいてきた素晴らしい精神文化を否定して)ちが否定されていることです。

私本は官本とは別枠で、ほとんどの刑務所で三冊までしか一度に所持できないことになっていて、だから、新たに私本を一冊購入したならば、手持ちの三冊の内一冊を提出しなければならぬ。提出された私本や閲読期間が過ぎた私本は倉庫に保管され、刑期を終えて出所するときに返却される。ただし雑誌に関しては廃棄されるといふ。中には家族のもとに郵送で返却されるものもあり、そうした運命をたどって、この写真集が古道具屋の棚に並んだものと思われる。

そこで、前回の『朗読者』が関わってくる。この本のおしまいの方で、彼女の独房の書棚が次のように描写されている。「ポリモ・レヴィ、エリ・ヴィーゼル、タデウシユ・ポロフスキ、ジャン・アメリカ……。ナチの犠牲者たちの本と並んで、ルドルフ・ヘスの伝記や、エルサレムでのアン・ヒマン裁判についてのハンナ・アーレントのレポートや、強制収容所についての研究書もあった。」と。つまりかなりの数の書籍が独房内にあったことが分かる。

しかし、日本ではどうかというと、「監獄法」という、何と明治四一年に施行された法律が未だに生きているために、刑務所内での読書は「在監者文書」図画ノ閲読ヲ請フトキハ之ヲ許ス「在監者文書」図画ノ閲読ニ関スル制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム「(三)一条」とあつて、不許可が原則だが、恩恵によつて許可するといふのが建前である。従つて、どんな本でも自由に読めるといふのが、以前ではなく、省は収容者ごとに以下のような許可基準を定めている。

- (未決拘禁者)
- (一) 罪証隠滅に資するおそれのないもの
 - (二) 身柄の確保を阻害するおそれのないもの
 - (三) 規律を害するおそれのないもの
- (受刑者)
- 上記(一)(二)のほか、教化上適当なもの
 - (死刑確定者)
 - 上記(一)(二)(三)のほか、死刑確定者の心情の安定を害するおそれのないもの
- しかし、個々の本をこの抽象的な基準に当てはめて可否の判断を下すのは容易ではなく、係争のタネになることも少なくないという。
- 1) 一方官本の方は次のような手順で利用できる。
 - 2) 選択日には図書カードを工場や舎房に送付し、収容者に官本を選択させる
 - 3) 収容者が官本を選択したときは図書カードに所要事項を記入させ、これを回収する
 - 4) 回収した図書カードにより当該官本を抽出し、収容者に貸与する
- 貸出期間はおおむね一ヶ月、雑誌は一週間、貸出冊数は合計三冊まで、ただし事典、経典、学習用の図書(通信教育など)、「裁判所その他法律上の権限を有する機関による権利救済を受けるために必要である」として貸与を願ひ出した図書(「六法全書」など)は、必要に応じて別枠で借りられる。社会から隔絶されて不可欠な新聞はどうなつて、その動きを知るために不可欠な新聞はどうか、紙の取扱規程と、収容者に閲読させる図書、新聞紙の取扱規程と、収容者に閲読させる図書、新聞紙は別

「通常紙」（一般の日刊新聞）と「通常紙以外新聞紙」（スポーツ新聞、政党の機関紙など）に区分され、受刑者は通常紙については一般の閲読傾向その他の事情を参酌して、所長が選定した一紙が備え付けられ、閲覧に供せられ、通常紙以外については差し入れという方法のみで一紙に限り閲読が認められている。

未決拘禁者の場合には所長が選定した二紙の中から一紙を選択し、指定の新聞販売店から自費購入することができる。しかし、施設に備え付けの通常紙については未決拘禁者は閲読できない。通常紙以外は受刑者と同様差し入れの方法のみで一紙に限り閲読が認められている。

たとえば、府中刑務所に次いで全国で二番目に大きい大阪刑務所の例でいえば、収容者が千八百人、職員数が五百人、刑務所内の図書室にある蔵書、つまり官本は、三万五四一八冊（一九九六年現在）で、この年から目録カードではなく、直接本を見て選べる開架式になって、収容者から大変喜ばれているという。

矯正施設（刑務所・拘留所・少年院など）は全国におよそ三百ヶ所あり、五万人前後が常時収容されている。これらの人に対して、日本の図書館では、二三の図書館が二五の施設に対して何らかのサービスを実施しているのみである。（そのほとんどは刑務所内にある図書室への団体貸出で、

刑務所の職員と模範囚が図書館まできて本を選んでいくところもある）

イギリスのアウト・リーチサービスの報告書を見ると、イギリスの図書館では、すでに一九七八年の時点で、地域内に矯正施設を持つ図書館では百分の図書館がサービスを行っている。

刑務所という塀の中の閉ざされた領域の中で、「読むこと」は大きな制約を受けているのである。先日、作家の加賀乙彦が「監獄こそは文明の象徴であり、人間社会があるかぎりそれは文学の永遠の主題であるという見方は日本においても真実であるのに、繁榮と安樂にどっぷりと漬かっている人々にはそれが見えてこないのだ。」（朝日新聞 二〇〇〇年九月三〇日 夕刊）と書いていた。もしかすると、文字を読まなくても済んでしまう繁榮と安樂という現状こそ識字の大敵である、という皮肉な逆説が現在という時代を表象しているのかもしれない。

〈参考文献〉

- 『監獄と入権』日本弁護士連合会 日本評論社 一九七七
- 『近代監獄則の推移と解説』重松一義 学文社 一九七九
- 中根憲一「受刑者にも公共図書館サービスを」『図書館雑誌一九九三年七月号』日本図書館協会 一九九三
- 「堺市立中央図書館における大阪刑務所への団体貸出」
- 『地域と施設をこえて—公共図書館における連携・協力の実践事例集—』文部省編 第一法規出版 一九九七



イラスト版



漢点字ってどんな字？ 21

1マス漢点字（第一基本文字）

	あ段	い段	う段	え段	お段
あ行		*糸 系 比 数	家 宿 学	*言 語	*頁 貝
か行	*金	*木	草	*犬	*子
さ行	都	*市	発	*食	*馬
た行	*田	*竹	*土	*手	*戸
な行	*人 仁	*水 氷	*力	*示	私
は行	走	進 火	*女	*玉	*方
ま行	*石	*耳	*車	*目	*門
や行	病		行		店
ら行	*月 肉	分 日	性 心	*口 囿	*十 止



□ は、今回新しく説明する字。
* は、一文字全体が部首になる字。
は、同じ部首に対応する二つの点字符号。



一マス漢点字の特徴

これまでの一マス漢点字の勉強を
未来ちゃん、まとめてみてね。

① 一マスの漢点字は、全部で57個。



おねえさん

志 点字は六つの点でできているから、
二つ以上の点の組み合わせ全部だね。

② この字は全部部首になり、
他の字の部品になるの。



未来ちゃん

志 基本文字って言うんだ。
一マスだから『第一基本文字』

③ *印の付いた36個の字は
そのまま部首になる字よ。



君朗志

志 そのままで偏や旁になるんだね。

④ 糸偏、言偏、人偏、さんずいの字は
沢山あるので、一マス漢点字に二つ
用意されているのね。

志 ウ冠もその中に入るよ。



⑤

*印の付いた36個の漢点字以外は
その漢字に含まれている部首の中で
代表的なものに使われるのね。

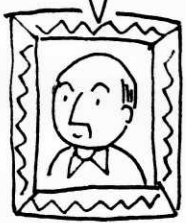
志 そう、

「都」はおおざとや
こざとへんに
「私」はのぎへんに
「病」はやまいだれ、
のようにね。



未 これから先に勉強する漢点字も
こんなふうにできているの？

お そうよ、今二人でまとめて
くれたのが原則よ。



川上先生

志 比と数がまだ残っているよ。

お では「比」からやりましょう。

基本文字ってなんだったつけ？

志 一つだけでも文字だし、
形声文字の部首にもなる字だよ。

未 一マス漢点字じゃあ部首の数が
足りないでしょう。

お 57個しかできなかつたのよね。
そこで川上先生、一案を思いついたのよ。

まだまだ沢山
部首になる漢点字
を作らなあかん
困った困った

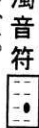
先生、
それでじゃな
漢字の持つて
意味で、グル
まとめてみた
んじやよ

比

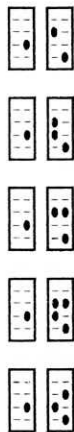



お かなの点字で、濁音はどう書くの？

志 2マス使うよ。

1 マス目に濁音符  を入れて
かなを書くんだ。


が ぎ ぐ げ ご



お そうね、この  に当たる符号を
前置符号というのよ。

川上先生は、漢点字にもこの
前置符号を取り入れたのね。

わかつた、

「比」の  を
前置符号にしたのね。

前置符号が付いた漢点字を

『対象基本文字』と呼んで、
その中の  を前置する字を

『比較文字』というのよ。

前置符号と
対象基本文字



前におくんだよ



比較文字

東 優 父 寸 入 大 高 左 上

西 良 母 尺 出 小 低 右 中

南 可 斤 下

北 貴

高 ●●
上 ○○
中 ○○
下 ○○
低 ●●

お

未

志

未

漢字と点字をよく見くらべてね。
母から毎、每から海・晦・悔になる時
の部首の組み合わせにも注意してね。



母

每

海

母

每

海

父

交

校

左

佐

比較文字が部首になる時は、
右側の符号が使われるのよ。
例をあげてみるわね。



部首になる比較文字

上中下・父母・東西南北…
そうか、意味でわけたんだね。

まだ他にも沢山あるんだけど。



未 お 志 未 お

大丈夫。漢点字にはごんべんが二つあったでしょう！

ちよっと待って。
左がごんべんで、右が寸だけだと
詩と討は同じになっちゃわない？

詩は、ごんべんに寺と書くけど、
点字ではごんべんと、寺の寸なのね。
そう、なるべく2マスにしたいからね。

「付」や「寺」を含む字もよく見てね。

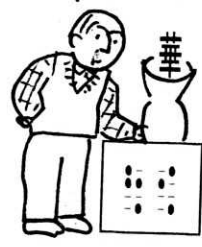
寸 守 村 府 寺 持 時 附 付 討

可	良	北	南	西	東	貫	斤	尺
↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
何	河	朗	背	献	要	練	慣	近
荷	阿	郎				棟	新	駅

未 荷は、草冠（クニ）と可（カニ）

ではなくて、
草冠（クニ）と人（ナニ）なのね。

クニ、カニは
別の漢点字に
当てたんじゃよ



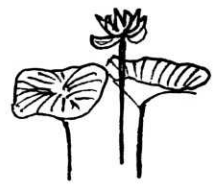
お

どう？ たくさん例をあげたけど
漢和辞典で漢字を調べてみると、
いろいろおもしろい発見があるわよ。

えっ、うそ！
『荷』って
“ハス”なの？



茎の先端に
直角に葉を
乗せるハス



何

肩の上に物に乗せて
かつぐ人の姿を表す
もとは、になう・荷物
の意の象形文字。

「何」が疑問詞に使われたため、
草冠を付けて、「荷」になった。



荷

ハス 葉の付き方が、肩に荷物を乗
せた人の姿に似ているので、「何」
に草冠を付けた、会意兼形声文字。

志

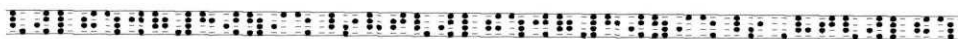
僕も調べたよ。
『海、悔、晦』の三つの字、
隣の毎で意味も読みも共通なんだ。

音はカイ
共通の意味は
暗い…

そうなの、
川上先生が苦勞なさったのは
漢点字に漢字と同じ意味を
持たせるところだったのね。



(作 岡田・絵 吉田)



座敷から月夜へ輪ゴム飛ばしけり



川崎 展宏



出直して来ることにして萩白し



飯島 晴子



書齋より夜長へ落す軽い咳



見学 玄

「歳時記」より

*本誌（活字版・テープ版・ディスク版）の無断転載はかたくお断り致します。

次回の発行は十二月十五日です。

宇田川 幸子



編集後記

はじめまして、この度、宗助さんのご都合で本誌の編集を引き受けました宇田川です。今後ともよろしくお願ひします。

風もさわやかに、あちらこちらで運動会の声援が聞こえてきます、夜には虫たちの合唱がいつそう、にぎやかな夜、今までの暑さが嘘のように秋の気配が深まる今日この頃です。

季節の変わり目のこの時期、皆様、体調を崩さぬようにお過ごし下さい。

前号からの続きですが、ここではMS-DOS版のEIBRKの操作について説明しています。

4. メニュー画面(つづき)

(4)一太郎変換(V.4, win)

点字変換された文章を、点字印刷されるイメージで墨字プリンターで印刷するために変換されたファイルを作るのが、メニューの4と5にある「一太郎文書への変換」です。ここでどちらかのメニュー番号を選ぶと、画面に表示されたファイルの、拡張子を「.TXJ」としたファイルが作られます(必要に応じてファイル名は変更することができます)。このファイルは、一太郎やWindowsのワープロソフトなどで読み込んだときに、変換された点字が外字を利用して点字の形で表示され、そのまま墨字プリンターで打ち出すことができます。このTXJファイルをワープロソフトなどで読み込むためには、それぞれのソフト側で読み込むファイルの拡張子にTXJが含まれるように設定する必要がありますが、それが面倒な場合は、ファイル名を元のテキストファイルとは別にして、拡張子をTXTにしたほうが便利かもしれません。

このメニューの4と5では点字を表すためのコンピュータ内部での外字コードが違っています。メニューの5でできるのはWindows用のファイルで、ここで変換されたTXJファイルは、Windows95または98で動いているプログラムなら、一太郎はもちろんですが、その他のワープロソフトやエディタなどでも点字用の外字が利用できるようになっています。しかし、そのためには外字ファイルが適切に登録されている必要があります。MS-DOSの場合には、この連載の第1回で説明したように、一太郎の補助登録で外字ファイルにTBGAIJ.UFOまたはTGGAIJ.UFOを指定すればよいのですが、Windowsの場合はやや複雑です。以下に

Windows の場合の外字ファイルの登録方法を説明します。

Windows 用の外字ファイルは、TBGAIJ.TTE と TGGAIJ.TTE です。形の違いは、MS-DOS と同じです。

外字ファイルの登録は、「スタート」ボタンを押してプログラムの中から「アクセサリ」の「外字エディタ」を選びます。このプログラムが立ち上がったら、「ファイル」の中の「フォントの選択」を選びます (Windows98 の場合は、最初に出てくる「フォントの選択」の画面はキャンセルして、画面上部の「ファイル」メニューを選んで下さい)。「外字フォントの種類」が「標準の外字」となっていますので、「書体を意識した外字」に標識を移します。そうすると、「関連付けるフォント」のリストが有効になります。この中で、印刷などに使うフォントの種類を選びます。通常は「MSゴシック」や「MS明朝」などでしょう。これらの一つを選んで「変更」をクリックすると、「外字ファイル名の変更」の画面になり、ファイルを選ぶようになります。ここで先ほどの TBGAIJ.TTE または TGGAIJ.TTE のあるフォルダーを選んでダブルクリックすると、目指すファイル名が出てきます。「ファイル名」の欄に目的とするファイル名が入ったら、「保存」ボタンをクリックします。そうすれば、ここで選んだファイルが、先に選んだフォントに割り付けられます。これは、必要とするフォントすべてに割り付けておかなければなりません。これは面倒なようですが、これをうまく利用すると、明朝体の印刷のところでは横線付きの点字が印刷され、ゴシック体のところでは横線なしの点字が印刷されるというような芸当ができることになります。

(5) ファイルの分割と結合

点字プリンターによっては、メモリーが小さいために1度に印刷するページ数が多いと、うまく行かないことがあります。そのようなとき、メニューの6でファイルを適当なページで分割することができます。これはページ単位での分割なので、第2ファイルの開始ページを指定する



ようになります。デフォルトでは全体のページ数の 1/2 に近い奇数ページを第 2 ファイルの開始ページとしています。このままでよければリターンキーを押します。この数字をここで変更することもできます。次に第 1 ファイルの名前を指定することになりますが、デフォルトでは元ファイル名に 1 をつけたものとしています。元ファイル名が 8 文字の場合は、最後の文字を 1 に変えます。第 2 ファイル名も第 1 ファイルと同様ですが、ファイル名は 2 がついたものになります。これらのファイル名はその都度必要により変更することができます。

メニューの 7 はファイルの結合で、画面のファイルを親とし、挿入するファイル名を入力します。挿入する位置は文末とカーソル行の前が選択できますが、これは行単位なので行の途中に挿入することはできません。

(6) EIB ファイルの作成

Ver.3.2 から追加された機能で、メニュー 8 で EIB ファイルの作成ができます。このファイルは、拡張子が「EIB」で、点字コードのみから成るファイルです。したがって、通常のワープロソフトなどでは読むことができません。これを読むには EIBRKR.EXE という別のソフトが必要で、これを使うとその場で漢字仮名交じり文(テキスト文)への逆変換を行い、画面に表示するので、音声出力をしたり、ピンディスプレイに点字を表示したりすることができます。

これは、「点字コードのみから成るファイルは、著作権者の許諾なしに配布できる」という著作権法の改正を期待して用意したものです。

(7) 行編集

メニューを表示した状態で f.6 ~ f.9 のファンクションキーを押すと、行単位の編集ができます。f.6 が削除、f.7 がカット、f.8 がコピー、f.9 がペーストで、それぞれカーソルがある行を対象として編集ができます。範囲指定の場合の終点の指定は、カーソルを移動してリターンキ

一を押して下さい。

5. DBLCONV と TXTCONV

MS-DOS 版の最後に、便利なツールとして作られた DBLCONV と TXTCONV について簡単に説明します。

漢点字変換用のテキストファイルは、必ず全角文字で入力するようにしていますが、ついっかりスペースを半角で入れたり、また最初からこの目的で入力したものではないものを漢点字変換に使いたいというような場合には、変換する前に半角文字をすべて全角文字に変換した方が好都合です。そのためのツールが DBLCONV.EXE です。

半角文字を全角にするとき、無条件にそうしてしまいますと、問題が生じることがあります。それは、点字を直接入力するときに、16 進コードを使った場合などです。EIBRK では、16 進コードは半角の英数字の組み合わせで表すことにしています。そのために DBLCONV では 16 進コードとして使われる可能性のある 0 から 9 までの数字と、A から F までの英字(小文字も含む)は、全角への変換からはずすようなモードと、例外なく全角へ変換してしまうようなモードと、2 種類の変換モードがあります。EIBRK では、その他に "@" や "¥" と半角の英数字を組み合わせて特殊なコードとする使い方もしていますが、このような場合は、どちらのモードでも全角への変換をしないようにしています。また、「半角 16 進コードはそのまま」のモードでも、半角の英数字が奇数個の場合は最後の 1 個は全角に変換し、半角のスペースは 2 個を全角スペース 1 個に変換します。

「一太郎変換」のところで説明したように、MS-DOS と Windows では、点字を表す外字のコードが違うので、それらを相互に変換するのが TXTCONV.EXE です。このプログラムを立ち上げてファイル名を入力すると、MS-DOS の外字は Windows に、Windows の外字は MS-DOS に変換されます。ファイル名を入力しないでリターンキーを押すと、作業はキャンセルされます。